

平成 23 年度 市民公開講座

「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」開催報告

担当理事 丹治 一

市民の放射線・放射能に関する不安や関心が高まっている現状に鑑みて、急遽、学会本部・放射線防護分科会・計測分科会の協力のもと、放射線に関する知識を提供する趣旨の公開講座を福島市にて開催しました。この公開講座には、一般市民や報道機関、学会員など 547 名が参加し、講師・会員と一般市民間で活発な議論が交わされました。

プログラムおよび講演内容の要約は次の通りです。

「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」(福島開催)

共 催：日本放射線技術学会東北部会・放射線防護分科会・計測分科会
後 援：福島県医師会、福島県放射線技師会
日 時：平成 23 年 7 月 10 日(日曜日)
会 場：福島市コラッセふくしま 4 階多目的ホール・3F 企画展示室(スクリーン投影と中継質疑)
参加人数：547 名(内訳:市民 454 名、会員・スタッフ関係者 79 名、報道 9 社 14 名)
開会挨拶：公益社団法人日本放射線技術学会 代表理事 真田 茂
閉会挨拶：日本放射線技術学会東北部会 開催県理事(福島県立医科大学) 遊佐 烈

講演 1

座長 日本放射線技術学会 東北部会長(山形大学医学部附属病院) 江口 陽一

①「放射線の単位と測定方法を学ぼう」 東北大学大学院医学系研究科教授 千田 浩一先生

講演 2

座長 福島県立医科大学放射線科教授 宍戸文男先生

②「“外部被ばく”を理解しよう」 広島大学放射線災害医療研究センター教授 細井 義夫先生

③「“内部被ばく”を理解しよう」 福島県立医科大学放射線科助手 宮崎 真先生

④「小児について考えてみよう」 長崎大学大学院医歯薬総合研究科教授 山下 俊一先生

⑤ 総合討論(質疑応答)

座長 福島県立医科大学放射線科 宍戸 文男先生

座長 日本放射線技術学会 放射線防護分科会長(旭中央病院) 五十嵐 隆元

コメンテータ 千田 浩一先生、細井 義夫先生、宮崎真先生、山下 俊一先生

⑥ 会場フロア質問コーナー

放射線防護分科会員、計測分科会員、東北部会役員、技術学会福島県会員が対応

⑦「放射線・放射能に関する Q&A」冊子の作成・配布

放射線防護分科会員、計測分科会員、東北部会役員、技術学会福島県会員が作成・配布



沢山の市民と報道関係者が集まった会場の風景(本会場)

【要約】

- ① 「放射線の単位と測定方法を学ぼう」(講師:千田先生)では放射線・放射能の基礎知識として、線種による特性の違いやシーベルト、ベクレルなどの単位について説明するとともに、市民が手にする機会が多くなったサーベイメータの種類や特性、取り扱いについても解説していただいた。
- ② 「“外部被ばく”を理解しよう」(講師:細井先生)では、線種による癌リスクの違いや、外部被ばくと内部被ばくの違い、また、自然放射線量、被ばく線量とがん死亡のリスクなどについて解説していただいた。
- ③ 「“内部被ばく”を理解しよう」(講師:宮崎先生)では、内部被ばく量の推定方法の解説や、預託実効線量の説明、食品の暫定規制値の背景、核種による生体内での挙動・排出経路などの解説をいただいた。また、福島に居住する一個人としての生活状況や考え方にも触れ、市民に向けて冷静な判断を促した。
- ④ 「小児について考えてみよう」(講師:山下先生)では、広島・長崎原爆被災者の被ばく線量域と発がんリスクの関係、および、チェルノブイリ原発事故に伴う放射性ヨウ素被ばくによる甲状腺がんの発症リスクに関して詳細な説明がなされた。また、一度の外部被ばくと慢性低線量被ばくでは生物学的反応が大きく異なることを解説していただいた。
- ⑤ 総合討論では、心配のあまり涙ながらに現状を訴える市民の他、生活や健康、防護や除染などについての切実な質問が多く寄せられた。それらの質問に対し、アドバイザーからは終始、不安払拭に繋がる返答がなされた。また、本会のような市民公開講座を定期的に行って欲しいとの意見も多く寄せられた。
- ⑥ 会場フロアに「質問受付コーナー」を設置し、市民からの個別質問にも応じた。質問コーナーには、室内での除染の方法や服装など日常生活に関わる質問が多く寄せられ、放射線防護分科会を主に多くのスタッフが対応にあたった。
- ⑦ 本開催にあたり、参加市民から事前に寄せられていた“放射線・放射能に関する質問”に対して、東北部会・開催スタッフ・放射線防護分科会の一同で回答を文書化した「いただいた質問に答えます 正しい理解と安心のために！－Q&A－」(全30ページ)を1000部作成して配布した。
また、残った資料は福島市小学校保護者会を通して福島市内の小中学校に寄贈した。(本会ホームページ市民の広場にてダウンロード可)

【謝意】

原発の事故以来、不才の身ながらも放射線業務に従事する一人として、「市民のために役立ちたい」とか、「自分には何が出来るのか?」、「今何をすべきか?」をいつも問うていたように思います。

この公開講座で垣間見られた市民の声や姿、それに真摯に向き合う講師やスタッフの姿を見ていると、問うてきた“何か”を見つけたような思いと言葉では言い表せない感動がありました。このような機会を得られたのも、デリケートな内容にも関わらず前向きに開催を検討して下さった部会役員の皆様、本部役員の皆様、そして、快く渦中へ飛び込んでくださいました講師・座長の皆様、放射線防護分科会と計測分科会の皆様のおかげと心から感謝しております。また、急遽行われた催事にも関わらず、応援の手をさしのべて下さった各県の役員・会員の皆様、1ヶ月程の短い準備期間の中で、街中を駆け回ってくれた現地スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。全ての皆様に心から感謝申し上げます。



本会場の映像・音声を中継したサテライト会場。2会場間での質疑応答も行われた。